



# し えん い 支援部だより

きたきゅうしゅうしりつこくらきたとくべつしえんがっこう  
北九州市立小倉北特別支援学校  
れいわねんがつにち  
令和4年1月14日 No.3

## せんもんい せんもんかりんしょうけんしゅう 専門医・専門家臨床研修とは？

きたきゅうしゅうしな い とくべつしえんがっこう せんもんい し かい しょうにかい せいしんかいとう せんもんか さぎょうりょうほうし げんご  
北九州市内の特別支援学校には、専門医（歯科医、小児科医、精神科医等）や専門家（作業療法士、言語  
ちようかくし りんしりょうし りんし だいがくきょういんとう ほんごん かいせん かいせん せいしんかいとう せんもんせいこうじょう ほか  
聴覚士、臨床心理士、大学教員等）が派遣され、子どもたちの課題の改善と教員の専門性向上を図るため  
の制度があります。本校でも毎年、子どもたちの様子を観察後に支援方法について教員へ指導助言をいた  
だいたり、校内研修会で講話をしていただいたりしています。

今年度は、作業療法士（OT）の内園史哉先生、言語聴覚士（ST）の松坂百合先生、臨床心理士のシ  
ャルマ直美先生、大学教員の倉光晃子先生、歯科医の唐木純一先生の5名の先生方に来ていただいています  
。限られた回数の中での研修ではありますが、専門医・専門家の先生方から直接、具体的なアドバイス  
をいただけるので大変参考になり、子ども達への支援に活かすことができます。

### R3年度 せんもんい せんもんかりんしょうけんしゅうかいすう R3年度 専門医・専門家臨床研修回数

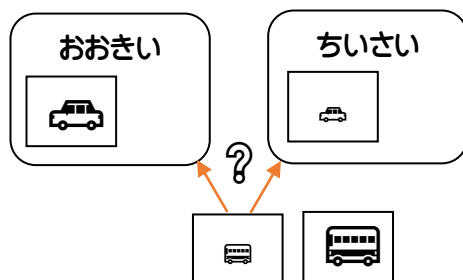
| さぎょうりょうほうし<br>作業療法士     | げんごちようかくし<br>言語聴覚士      | りんしりょうし りんし<br>臨床心理士    | だいがくきょういん<br>大学教員                  | し かい<br>歯科医             |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------------------|-------------------------|
| 10回                     | 2回                      | 3回                      | 4回                                 | 5回                      |
| こんねんど しゅうりょう<br>今年度は終了。 | こんねんど しゅうりょう<br>今年度は終了。 | じかい がつ よてい<br>次回は2月に予定。 | じかい がつ よてい<br>次回は1月に予定。<br>(校内研修会) | じかい がつ よてい<br>次回は2月に予定。 |

今回は言語聴覚士（ST）の先生からいただいた指導助言の一部を紹介します。参考にさせていただければと思います。

Q. 自分から言葉を発することが少ない子へはどのように支援すればよいですか？（小学部）

A. ①話さなくても、本人は日常生活の中で特に困っていないのかもしれない。まずは、発語や  
発音よりも分かる言葉を増やすこと、本人の「伝えたい」という気持ちを育てることが  
大事。そのために、本人の興味のあるもの、好きなものを課題に取り入れ、楽しみなが  
ら「伝えたい」気持ちを育てたり、語彙を広げていったりするとよい。

- （例）・好きな物や好きなキャラクターのカードで大小の学習をする。
- ・自分から要求を伝える場面を設定する。（カードを使う。モデルを見せる。）



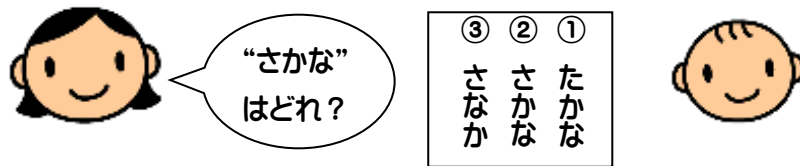
②発音する力は、体全体の筋力や手先の器用さとも繋がっているため、まずは体全体を大き  
く動かす粗大運動からアプローチすることも大切。力の入れ方が分かるようになれば、  
発音もクリアになる。

Q. 発音に不明瞭さがあり、特定の音が出にくく、違う音で発音してしまう子へはどのように支援すればよいですか？（中学部）

A. ①まず、聞こえに課題はないか確認する。（聴力検査の結果等）

②聞こえに課題がない場合、言葉の聞き分けに課題があるかもしれない。自分の発音の間違いに気付く練習をするとよい。

（例）間違いやすい音が含まれた単語が複数書かれたカードを見せながら、教師が発音した単語はどれだったかを選ばせる。



③口の体操をするなら、口を開けたまま5秒止まる、舌を突き出したまま5秒止まるなど、一定時間「止まる」練習をするのが効果的。鏡も使って、本人が自分でできているかを確認できるようにするとよい。

④粗大運動も大事。発音にしても粗大運動にしても、力を入れる所、力を抜く所など、体（口周りや舌も）の使い方のイメージが上手くできていないと難しい。同じ姿勢を維持する練習をするとよい。

（例）両手を床に着いて、バランスボールに足を乗せて、そのままの姿勢で10秒キープする。

⑤語彙を増やしたり、広げたりして、分かる言葉を増やす。

（例）状況絵カードを使って、状況を説明したり、その時の気持ちを言ってもらったりする。



⑤中学部段階であるので、言葉で上手く伝わらない時の代替手段を使う練習を早めにはじめた方がいい。

（例）紙に書く、タブレットで入力する など